

令和2年度 第3回 昭島市社会教育委員会議・要点録

開催日時／会場 令和2年6月18日（木）午後7時00分～8時15分 庁議室
出席者 谷部議長、中村副議長、佐伯委員、齋藤委員、長瀬委員、稲垣委員、
濱田委員、松本委員、二ノ宮リム委員、吉村委員
事務局 倉片生涯学習部長、川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 生涯学習部長 挨拶

2 開 会

＜配付資料＞

- 資料1 第30期昭島市社会教育委員会議活動の記録
- 資料2 テーマ「対話から地域力を育む社会教育」について
- 資料3 社会教育関係団体数推移

- ・あきしまの教育 第100号
- ・公民館だより No.198
- ・あきしまの青少年 No.259
- ・令和2年度第3回社会教育委員会議：一言コーナー
- ・令和元年度社会教育委員活動記録

3 協 議

（1）第30期昭島市社会教育委員会議活動の記録について（資料1）

議 長 今期は建議ではなく、活動の記録を作成する。この活動の記録は8月にほぼ完成とし、9月の委員会で教育委員会に提出、次期につなげていきたいと考えている。

委 員 今回の感染症対策に伴い、社会教育施設が軒並み閉鎖となり、閉鎖の是非というより、市民のニーズに応える社会教育、人権としての学習を支える社会教育の在り方が問われる出来事だったと思う。そこに触れないわけにはいかないと考える。その経緯と市民のニーズや対話との関係をどこかで触れたい。

議 長 「おわりに」や「まとめ」のところで触れてはどうか。

委 員 記録としては重要なところになると思う。コロナの時に社会教育がどういう状況であったかという記録は必要。

委 員 社会教育ということに関しては、我々の団体も普段何もない時であれば活動を後押ししたりすることができたのだが、何もできなかった。こういうときの社会教育の在り方はどうあるべきか考えさせられた期間でもあった。

委 員 「対話から地域力を育む社会教育」をテーマに我々は活動してきたわけだが、今回のコロナで、感染防止の観点からリアルに直面して会話することができなくなった現状と、それでも人間は対話が必要であるという真理をとっても考えさせられた時期だった。実際、

自分の所属団体や会社で活動の制限があったわけだが、余った力を別の新たな活動に注いだ方もいたのではないだろうか。従前たる社会教育とは違う新たな社会教育の動きであったのではないか。最初にそういうことに触れ、最後にも新しい社会教育に向かう階（きざし）を結論として書き、新しい世代の社会教育を見つけなければならない。市民活動を20年やってきたが、なかなか進んでこなかったワークライフバランスなど、このほんの数か月で必要に迫られ一気に進んだことに驚いた。20年の市民活動の中で「人の意識を変えることは大変」と学んでいたにもかかわらず、このウイルスによって一気に人の生活が変わったということは、おそらく人類の歴史上産業革命以上ものだと思うので、しっかりと触れたい。活動報告するにあたっては最後に予期せぬ事態によって、検討も議論もしないままでも答えを出さなければならないという厳しい状況にあることも正直に書かなければいけないと思う。社会の流れの中で、社会教育委員とその活動が翻弄されたかを記しておきたい。

委員 5ページに7番として、書面を通した情報共有や、各団体の活動の状況など得られた情報を記録してはどうか。この数か月、学校では地域の方を招くことや、地域に出かけていくことが難しくなり、学級活動の制限も生じているなど、学校教育も社会教育とのつながりが持ちづらくなったところもある。休校中の児童・生徒の状況把握についても追記してもよいのではないか。ただ、あとがきには社会教育の拠点としてのアキシマエンスへの期待と展望、明るい未来についても触れられるとよい。

議長 いただいたご意見を事務局とも調整し、次回にご提案したいと思う。

委員 ひとつ提案なのだが、社会教育委員名簿を五十音にしてはどうか。

委員 五十音順にするということによい。

委員 先ほどの追記の件だが、7番としてコロナの感染と拡大の時期について、8番として緩和されてからの活動になると考えられる。活動の中で思われたことを集めて記録にしたい。

委員 7番については、書面審議になったことや昭島市の社会教育がどういう状況になったかということ、それぞれの団体の様子、学校教育と社会教育のこと、8番では今回のこの定例会の様子などになるのではないか。「おわりに」には、一つにまとめるのもよいと思うし、編集後記のようなスタイルでもよいと思う。

委員 29期、30期と「つながり」をどう増やすかということで進めてきたが、対面でつながりを保つことができなくなっている今、必ずしも量を増やせばいいということではなく、量から質へ、ではないが、どのような形でつながりを求めていくかになってくると思うので、各委員がこれからどのようなつながりを保っていけるかを考えてみたかや、模索してみたかをそれぞれの立場で書いてみてはどうか。一つテーマを決めて、各々が書くというのもよいのではとも思う。

委員 名前を入れるのは難しいと思う。

委員 「おわりに」には、出来上がったものを振り返り、次期への思いなどを書いてだしてきたので、コロナの影響により停滞した社会教育活動の事実を踏まえ、次期、どう活かしてもらいたいのか、新しい生活様式を取り入れた社会教育について触れていくとよいの

ではないか。

委員 「おわりに」については、次回記録の内容を詰めて検討する方がよい。

議長 活動の記録の内容についてのご提案やご意見を7月9日までに事務局へ出していただきたい。

(2) テーマ「対話から地域力を育む社会教育」について (資料2)

①市民意識調査の活用調べについて

②あきしま会議参加団体へのアンケートについて

③令和2年度のあきしま会議について

議長 アンケート等については今期での実施は難しいと考えられるので、次期に引き継いでいき、あきしま会議については、令和2年度中に期が変わったとしても実施したいと考えているがどうか。

※異議なし

報告 (説明有)

(1) アキシマエンシス (教育福祉総合センター) の開館について

事務局 6月9日より、無事オープンできた。初日のアキシマエンシス本館来館者数は2,432人、郷土資料室へも1,004人と多くの方にご来館いただいた。

(2) その他

事務局 市立会館の利用は、6月15日より一部の活動を除き再開、6月22日からは定員を半減～3割減とし、利用については従前どおりにもどる。来館される方には消毒や名簿の作成にご協力いただき、感染防止に努めていく。

報告 (説明無)

(1) 令和2年度社会教育関係団体登録数について (資料3)

委員 体育協会の登録は、その中の一部の団体か。

事務局 体育協会、文化協会はそれぞれに加盟している団体すべてを登録するので、登録者数も各協会の全体数となっている。

次回

7月16日 (木) 午後7時より アキシマエンシス 301 会議室にて

8月20日 (木) 午後7時より 市役所 3階庁議室にて